

第4回 王寺町総合計画審議会

日時：平成26年10月3日(金) 午後7時00分～

場所：やわらぎ会館3階 小会議室2

案件

1. 基礎調査報告書について
2. 成果指標（案）について
3. その他

あいさつ

【事務局】

本日は、お忙しいなかご出席いただきまして本当にありがとうございます。ただいまから、第4回王寺町総合計画審議会を開催させていただきます。本日の会議の委員の皆さまの出席は14名です。委員総数15名の過半数となりますので、総合計画審議会条例第6条第2項の規定によりまして、会議が成立しますことをご報告いたします。それでは開会にあたりまして、会長から一言ごあいさつをいただき、議事の進行をよろしく申し上げます。

【会長】

皆さま、こんばんは。前回の会議から少し日にちが開きましたが、さまざまな基礎作業に時間をかけて下さったと聞いております。本日は、そのご報告をいただくということでございます。どうぞ、よろしく申し上げます。

案件

1 基礎調査報告書について

【事務局】 <事務局より資料①王寺町総合計画策定のための基礎調査報告書に基づき説明>

【会長】

ただいまご説明をいただきましたが、まだ素案でございますので「このような項目はどうか」、または「このような追加データはないのか」等のご意見があらうかと思えます。ご自由にご発言いただければと思えます。

【委員】

非常に膨大なデータを懇切丁寧に整理していただいておりますので、読み込むのが大変でございました。現状と課題を整理し、課題解決に向けての方法を考えて計画を立てていくというのがふつうの流れですので、まさにこの基礎データが出発点であると思えます。この資料につきまして、興味深い点を何点か発言させていただきます。

P8、P9の「人口の推移」では、人口区分別の棒グラフを見ますと高齢化は高まっていますが、人口は全体的に減少していくという傾向にあります。これを見ておわかりのように、高齢者の数は実数として減っていかないということと、それに対して15～65歳までの労働人口が減っていくということが一番の問題であり、この点についてどのようにうまくやっていくかが重要であります。

P11、P12の「人口流動」では、王寺町は優位性があるのではないかと思います。人の出入りが激しいということは、交流人口が非常に大きいと考えられます。駅の乗降数につきましては、奈良市よりも高いことでもあります。商業的にも非常によい資産であると思えますので、この点をどのようにうまく活用するか分析していきたいと考えております。

王寺町内では不登校児の割合がゼロであり、うまく子どもたちを支えて下さっているまちであ

ると思いました。これは、「子どもにやさしいまち」として非常に大きなアピールポイントになると思えます。

出生率につきましても非常に高く、また平均寿命も高いということで、非常に暮らしやすいまちであるという感じがします。先ほど空き家が多いとご説明がありましたが、空き家を開放して「王寺町で生活をしていると長生きできます」とアピールし、他市町村から人口を呼び込む方法も一つであると思えます。

先ほどの特別養護老人ホームのご説明にもありましたが、利用者の規模を考えると町内でカバーするだけではなく、周辺にどのような施設があるのかを調査して、高齢者で重度の場合は施設をうまく活用するという広域連携についても考えていく必要があるのではないのでしょうか。

P68の「協働」につきましては、ボランティアの登録人数だけを示しても中身が見えてこないと思えます。人口のデータがありますので、1人当たりの登録数を示していただいた方が比較しやすいように思います。また、NPOの数なども掲載していただければと感じました。

王寺町のなかで、協働事業の事例がどれだけあるのかについてのデータを掲載していただければ、将来的にどのように活用できるかということにつながっていくと思えます。

【アドバイザー】

住民の皆さまにわかりやすく説明する際に、王寺町の強み・弱みを分けて情報発信していただければ、どのように強みを伸ばして弱みを改善していくかについて一緒に考えることができると思いました。

王寺町には大和川もあり、過去には浸水の被害もありました。王寺町だけではなかなか改善できないこともあるのかもしれないですが、そういった弱みがあるのでしょうか。

はじめて空き家率のデータが出てきましたが、奈良県よりも高いということに驚きました。空き家は賃貸住宅で多いのか、それとも一戸建て住宅で多いのでしょうか。どちらかによって、対応策も変わってくると思えます。

【会長】

いずれにしてもこれは現状分析ですので、現状をどのように把握し分析するかという材料でございます。この材料をもとに今後王寺町でどのような方向性で施策を進めていくのかという計画書をつくる作業になり、これがスタートラインになるという認識でございます。

【委員】

P13、14に「王寺町内の主要駅の乗車状況」について書いてあります。おそらくP13はJRの駅の数字でP14は近鉄線の数値であると思えますが、この数値の意味がよくわかりません。例えばP13の2012年の数値は、王寺町の1日当たりの平均乗車人口が24,979人となっております。P14の2012年の数値は、1日当たりの乗車人口にしては大きすぎるように思います。

【事務局】

P14は年間の数値となりますので、統一させていただきます。

【委員】

王寺駅を考えるにあたっては、近鉄線の下田・五位堂・二上の数値も参考データとして一緒に掲載していただかなければ、周辺の乗車人口の比較としては欠けると思います。

【会長】

いただいたご意見は、できるだけ忠実に反映できるようにやっていただきたいと思います。

【委員】

P27の「土地利用」の問題も関連してくると思います。特別養護老人ホームにつきましては他の委員会もございまして、近隣の状況も鑑みながら今勉強中でございます。その委員会のなかで「土地利用」の問題とも関連しまして、特別養護老人ホームを建てる場合に一定の広さを維持しながら利用できる場所はどれくらいあるのかということまでは調査をして、何か所か候補が挙がっております。しかし、王寺町は7㎏と非常に狭い土地でありますので、どれだけ利用できる空き地があるのか、どのように活用しながらまちづくりを進めていくのか等の方向性を決定することが必要になると思います。

それに加えて空き家の問題に関しましては、防犯・防災上のさまざまな問題が絡んでくるだろうということで、各自治会で自治会長が調査に入っております。空き家の利用につきましては、現在どのような状況であるか把握しなければ賃貸・売買・取り壊し等、正しい選択をすることができません。調査結果が出れば、10年間の総合計画に反映させていくことができるのではないかと考えております。

【会長】

このデータ以外の要素につきましても、計画策定の途中で随時取り込んでいけるということをご理解いただければと思います。

近隣地域に比べますと、全体的にかなりしっかりとした町政経営を行っていると感じます。しかし、それにも限界がきているという感じでございます。近隣地域と同じように、高齢化の波から逃げるできないということは覚悟しなければいけません。救いは、財政改革・行政改革で職員数も絞り、また借金の7割方の貯金もあって健全経営を行っているということです。

ただ、それから先のことをどう描いていくかと考えたときに、行政だけが合理化や経営努力を行っており、町民の自治能力や自衛能力に関してはデータも薄く、政策的な展開が遅れているのではないかという気もいたします。特に「協働」の章に関しましては、社会福祉協議会と行政の柱のみの記述だけで、いかにも内容が薄いと感じます。例えばNPOをもっと開発したり、町内会の後押しをしながら地域の自治システムを強化するという方策についてはまったく手を打ってこなかったのかもしれませんが、今まで地域の自治力に任せてきたという面があったかもしれません。

データは、いろいろ補強していただきたいと思います。先ほどご意見にもありましたように、全国・奈良県・王寺町という比較をするべきものは原則的にはほとんど全てです。どうしてもデータがないものに関しては外してもよいと思いますが、データの取れるものに関してはすべて示した方がよいと思います。例えば、図書館の貸し出し者数につきましては、王寺町だけしか記載

されておりませんので、多いのか少ないのか比較することができません。このようなデータは、明らかに全国・奈良県ともにデータを取れますので、ぜひ入れていただきたいと思います。

第7章「協働」につきましては、内容を補強した方がよいと思います。

【会長】

それでは、次の議題「2. 成果指標（案）について」に移らせていただきます。これは、総合計画で目標を定めていくということを確認しておりますが、各分野・項目ごとに目標が示されたあと達成率を見ていきます。その成果指標がどのようにうまくはまっていくかというのは非常に大事なことであります。現在庁内でも総がかりで協議しておりますが、大変苦勞されているようです。それでは、ご説明をお願いします。

2 成果指標（案）について

【事務局】 <事務局より資料②王寺町新総合計画 基本計画 成果指標一覧に基づき説明>

【会長】

これは、王寺町の新総合計画を策定し、基本計画の部分となっていきます。基本計画の各政策分野に施策ができます。施策のなかに個別事業がありますが、その事業評価について（案）として示しているものであります。空白の部分もございしますが、これは現在検討中ということであると思われまます。ご覧いただきまして、指標についてそれぞれのご提案があると思しますので、ご意見をお願いいたします。

【委員】

目標として「1、快適で暮らしやすいまちづくり」「2、安全で安心に暮らせるまちづくり」とありますが、一番上に掲げられております「住民に開かれ自立するまちづくり」というのは、別項目でしょうか。

【会長】

この資料は大・中・小となっている構図で、大きいくりとなっておりますのが「1、快適で暮らしやすいまちづくり」であり、そのなかにそれを受けた政策が掲げられております。その政策のなかに施策があり、それを受けた個別事業がここには書いておりませんがまた個別にございます。

【委員】

はい、それは理解しておりますが「住民に開かれ自立するまちづくり」という目標が、番号もついておらずに別項目となっているのはなぜでしょうか。

【事務局】

この資料は、はじめにまちづくりの大きな目標や将来像があつて、その下に将来像を達成する

手段として共通のまちづくり目標が枝分かれしているイメージでございます。大きくくりとしましては、「1、快適で暮らしやすいまちづくり」を達成するための手段として、その下に政策がございます。政策を達成する手段として、それぞれの施策がございます。

「住民に開かれ自立するまちづくり」だけ別項目にしておりますのは、ご意見をいただきすべての目標に共通するということで別に示した方がよいということになったからでございます。この体系につきましてもまだご承認いただいておりますので、現時点で想定しうる範囲内でこのように分類しております。これから、随時ふさわしい形に修正していきたいと考えております。

【委員】

成果指標自体が総合計画と関連することで、どういった影響が出てくるのでしょうか。例えば、道路の整備率や人口の増加率については成果として数値で示せると思いますが、総合計画の中身すべてを数値で置き換えるということは疑問に思います。

【会長】

数量的に把握しやすい評価以外に、すべてを数値化するのはいかなるものかということでしょうか。

【委員】

総合計画の中身すべてを、数値に置き換えることはできるのでしょうか。また数値に置き換えることが、総合計画のなかでどれほどの意味があるのでしょうか。私たちが考える総合計画とはひとつの目標であり、数年後にその目標に向かってどれだけ達成できたかということが評価として出てくるというものであります。今行うべきことは、私たちが求めるまちづくりの将来像を目標に立てることであって、現段階でできる・できないとして成果指標にあげるのはどうかと思います。

【会長】

総合計画は法律で義務付けられていました。そのため、全国に総合計画は広まりました。しかし行政の立場からすると、自分たちがつくった10年計画に目標数値を設定されて縛られたくないので、コンサルタント会社に依頼し計画をすべて作ってもらうといった時代がございました。その当時は議会でも総合計画を参考にせず、職員に至っては見たことがないということも中にはあったようですが、そのような無駄な総合計画をつくる時代はもう終わっております。

これからのまちづくりについて真剣に考えたときに、住民や議会も含めて計画の大切さを認識しようではないかという考えになってきました。ですから計画とは何かといいますと、構想とは違い、一定の目標値としばりが無いといけないものでございます。そのため、目標数値を入れるというのがここ数年の定番になってきました。先ほどおっしゃいましたように、定量的に数値が入れられるものと定性的にしか分析できないものがあるというのは、当初から批判がございました。定性的なものとは何なのかといいますと、皆の満足感や誇りというものです。しかし、それもサンプリング調査を実施すれば数値が出るということは証明できております。「困ったときの満足度調査」と言われるくらいであります。ただ問題は、かなり未来の成果をとるのか、半年から

1年後くらいの短期でとるのかによっても成果指標は変わってくるということです。それをどのように捉えるのかというのが本日の議題であり、委員の皆さまそれぞれのご意見をいただきたいということでございます。例えばこの資料では、刑法犯認知件数が非常に高いです。ということは、王寺町は乗降客が多く流動性も高いので、住民の面識関係が薄れているまちになっているのではないのでしょうか。安全に対してコストを払わなければいけないという危険性が出てきたと私は思います。このように、刑法犯認知件数を減らすということも数値としてしっかり出てきますが、その背景には住民の意識を高めたりなど、定性的なことがたくさんかかわってきます。

学校教育でも、耐震化率やハードウェア関連ばかりが指標になっておりますが、皆さまのご要望としましては進学率の増加が一番の指標になると思います。そのようなことを指標にするのかという議論もあります。つまり、質の議論をいかに量に置き換えることができるのかというのが技術の出どころであると思います。今日では、目標数値の入っていない総合計画は存在しません。

【委員】

おっしゃいますように、あまり数字でしぼるとかたちだけのものになりそうな気がします。例えば、数で捉えるのか、一方で地域のなかで密集市街地の問題を計画で取り上げるといえば、1地区ですが大きな問題であります。数値や考え方によっても中身が変わってくるだろうと思います。そうなりますと、考え方というのは難しいですね。どのような項目をとるか考えたときに、単位の数、面積、量でとるのかによっても変わってくると思います。

【会長】

細やかな数値設定目標は、総合計画を受けた中位計画が別にあるはずですので、そこで議論をしていただければよいと思います。例えば施設配置計画、都市計画、教育基本計画、障がい者基本計画等、総合計画を受けた別の計画ができて参りますので、その計画のなかでまた目標指標の話をしていただかななくてはなりません。この会議では、最高上位計画のなかでどの手法が一番捉えやすいかということを考えていただければと思います。

【委員】

実施計画や中位計画のなかでは、ある程度具体的な指標について数値を追わなければならないと思います。この会議は、大きな枠組みを設定するための議論であると認識しておりますので、成果についての細かい数値をどのように扱えばよいのか、あまり細かすぎると小さい計画になるのではと感じました。

【会長】

今までは、きつく縛るのはかわいそうなので細かく作ってこられず、多くの自治体はそのまま放置してこられました。本来は、住民の皆さまと一緒に作って議会に承認していただく総合計画であるので、全員が認知した目標を設定する必要がございます。この計画では、シンボリックな指標を選びだしてほしいと思います。成果指標の選択方法につきましては原案が出ておりますが、これでよいのかどうかについてご意見をいただいてもよろしいかと思います。また、違う方法が

ございましたら是非おっしゃっていただきたいと思いますが、成果指標をつけない方がよいというのはあまりよくないと思います。定性指標であっても、定量化する研究をされております。

【委員】

成果指標につきまして、満足度をサンプリングしてどの程度の信憑性があるのかと思いましたが、きちんと数値に直すことができるのであればそのまま続けていただきたいと感じました。細かい内容につきましては、これでよいと思います。

【委員】

「健全な財政」に関しまして、これからは税収を増やしていかなければいけないと思います。そこで滞納率も示していただければわかりやすいと思います。現在、住民の皆さまは自治会に入っておられますか。若い方などはいかがでしょうか。

【委員】

ほとんどかと言われるすと、ほとんどではございません。ただ、その数値は出しておりません。

【委員】

今まではコミュニティーでみんながつくり上げていくというかたちのまちづくりでした。しかし今は個人の集まりになってきておりますので、自治会が重要になっていると思います。そのようなことから、自治会にどれだけ入っておられるかということも書いていただきたいと思いました。

【事務局】

王寺町では、自治会の加入率を把握しておりませんでした。現在、自治会長のご協力をいただいて、数値化しているところでございます。

【委員】

自治会は大切な単位であると思いますが、駅前開発によって大きなマンションができたりしておりますので、まちの在り様も変わってきているのは確かでございます。ですから、自治会運営も同じような形で進められるのかという点もまたこれも問題があります。そのあたりにつきましては、皆さまで意見を出し合って各地区に合った運営の仕方を検討していかなければならないと思っております。

【委員】

子ども会もあるところとないところがございます。そういったことの把握ができていないのではないかと思います。

【会長】

総合計画を審議していく上で大変重要な重点項目になってくるということを、頭に入れておき

たいと思います。

【委員】

P8の「活力とにぎわいのあるまちづくり」に関しまして、私は商工会をやっておりますが、空き家とともに空き店舗も増えてきており、廃業される方も毎年おられます。商工業者数もだんだん減っており、商工会で把握しているところでは現在820~830あります。ここに書いていただいております「イベント回数」よりも、どのような業種の方がどれだけおられてどれだけ廃業されているのか、また新規に開業された数の統計も取っていただければありがたいと思います。商工会に入っただけで人数と商工業者数の割合を出したものを組織率といい、県からは最低60%を目標にとのこととなっております。しかし、毎年だんだん減ってきております。空き店舗をいかに利用するかということが課題となっており、昨年度のデータを集計したいと思いますので、できましたら協力いただきたいと思いますと考えております。

【会長】

今のご提案につきまして、できるだけ活かせる方向で検討していただきたいと思います。今おっしゃったのは、企業率マイナス廃業率で指数がプラスになるような方向性でとの内容だったと思います。このデータは出ますか。

【事務局】

起業率や廃業率の統計調査というものはございませんので、なかなか実態をつかめないのが現状です。空き店舗の推移は、商工会の方で集めておられるのではないのでしょうか。

【会長】

商工会と協力して、把握するということがよろしいでしょうか。

【事務局】

また相談させていただきます。

【委員】

要介護者の開示につきまして、プライバシーの問題もございますのでもう少しスムーズにできるように考えていただきたいと思います。

【委員】

担当課が政策や施策のデータを出して今後のことを考えて下さっていますが、先日の自治会のお話で、王寺町には自治会が52あってさまざまな内容をすべて把握しておられます。王寺町について、真剣に考えて下さっていると思いました。

【委員】

「学校教育の充実」の中の幼児教育では、空調の設備割合と幼児教育の充実とありますが、か

なり漠然としていると思います。小・中学校では空調とトイレの改修とありますが、もう少し教育の充実ということで教育の中身にかかわったデータがないのでしょうか。

P 8には公民館の学級・教室の充実について書かれております。例えば、公民館の教室の人数を記載してもよいのではないのでしょうか。

町民1人当りの図書貸出冊数のところでは、町民が図書館をどれくらいの頻度で利用しているか、また1人何冊借りたかについて調査してみてもよいのではと思いました。また、貸出冊数や現在何人が借りているのかについては数値で出せると思いますので、データとして表してみてもどうかと思いました。すべての項目について、もう少し具体的にわかりやすくしていただきたいと感じました。

【会長】

学校教育が空調とトイレの改修等、ハード面のことでよいのかということですね。

【委員】

人口減少社会において王寺町に子どもをいかにして取り込んでいくか、これは王寺町の存続にかかわる問題であると思います。王寺町で子育てをしたいと思っていただけるようなデータや、何か具体的な特徴を前端的に押し出すことが重要であると思います。短所は素直に評価すればよいと思います。

【委員】

P 5の「高齢者福祉の充実」につきましては、最近高齢者も元気な方が多いように思います。これからは、もっと高齢者の人材を活用するような取り組みが大切であると思います。王寺町では、4人に1人が高齢者です。これは健康づくりにも関連してくると思いますが、高齢者の労力を活かしていかなければ町が衰退していくばかりです。

文化財につきましては、王寺町には歴史資料館がございます。また、通り道にも歴史があるということを認識していかなければなりません。新しい住民が多くなってきておりますので、王寺町の古い歴史が風化されないためにも、王寺町についていろいろ知っていただきたいと思います。

【会長】

社会活動に参加する高齢者の人数や元気高齢者の比率を算出するなど、さまざまなやり方があると思います。

【委員】

この資料のなかの「安全で安心して暮らせるまちづくり」、次に「少子高齢化のなかでの子どもと高齢者の問題」、最後に「学校教育の問題」と3つの柱が大切であると思います。

「安全で安心して暮らせるまちづくり」とは何かといいますと、例えば王寺町には大和川と葛下川がございますが、先般の大雨のときも水位が上昇しました。一番危ないのは舟戸で、すべての水が合流するところです。舟戸は土地が非常に低く、護岸工事を行っているものの手薄のため、王寺町が水難の危機に面しているのです。葛下川と大和川の合流点で、葛下川の水は逆流します。

王寺町でもこの事業には取り組んできておりますが、災害は待ってくれないということが明らかにわかつてと思います。この計画で、どれだけの覚悟を持って事業に取り組むかということが大切であると思います。

2つめは高齢者の問題です。子どもの数は減ってきておりますが、王寺町に移住する人は増加しております。高齢者には、ぜひボランティアに参加していただきたいと思っております。高齢者、または後期高齢者のなかでボランティアに参加しておられる人はどれくらいおられるのでしょうか。65歳以上の退職者が2～3年間家で何もせずにいますと、身体を悪くして病院に通われる方もおられると思います。ボランティアは無料が当たり前ではなく、有償ボランティアもつくっていく必要があると思います。例えば、有償ボランティアはポイント制にして、今まで有償ボランティアで頑張ってきた方が病気になって医療費が高額になった場合、そのポイントを利用できるというシステムについても考えていただきたいと思っております。

3つ目の子どもの問題に関しましては、王寺町は子育てしやすく、また進学率も素晴らしく子どもたちもみんな元気で活発であるというようになってほしいと思っております。

実際に幼稚園と中学校の子どもたちを見ておりますと、教わったことはできるのですが元気がないように思いました。校長先生があいさつをしても、返すことがありませんでした。今、教育現場では「命の大切さ」について盛んに言われておりますが、形だけではなく実践することの大切さを学んでほしいと願います。

この3点については、明日からでも動いていかなければならないことばかりでありますので、ぜひ取り入れていただきたいと思っております。

【委員】

目標・政策・施策はこれでよいと思っております。成果指標につきましても、診断項目をもう少し細分化していろいろな内容を入れていただければ、数値がわかりやすくなると思っております。

【会長】

今いただきましたご意見につきましても、可能な限り反映していきたいと思っております。計画ができた後の住民の皆さまの思いを代弁して下さっているかもしれません。先ほどのご意見にもありましたように、果たしてこの指標で引き金になるのだろうかということだと思います。指標の数を増やすべきかどうか、もう少し施策が目指す具体的なイメージを示した上で成果指標を細かく出すべきではないかというご意見をいただいたと理解しております。この指標では踏み込みが足りないとのことですが、もう一度再検討していただくということで本日はご了承願いたいと思っております。

【事務局】

まだ成果指標が各担当部署で設定できていないところが反省点であると思っております。王寺町の強み・弱みにつきましても、国や県との比較がございませんのでまだ表せておりませんが、比較をすることによって、王寺町の強み・弱みをはっきりさせたいと思っております。弱い部分に関しては、当然伸ばしていくことが課題であると思っております。課題を達成するための手段としまして、先ほどいただきましたご意見をふまえながら、数値で見えていくのにふさわしい成果指標を新たに設定し直していきたいと思っております。

成果指標の数を増やすということについては、あくまでも施策ごとの成果指標ですので、施策を達成するための手段というのはいろいろな事務事業がございます。事務事業は、実施計画のなかの事業について目標数値を達成していくというもので、大きな施策を達成するための手段として毎年実施計画で定めて、それを目標にやっていきます。施策として成果指標を増やしますと、住民の方にも理解してもらいにくい部分もございますので、一番大事な部分を施策の成果指標として設定していきたいと考えております。しっかり再検討を行ってからご提案させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【会長】

これからご意見をいただく2人には、専門的なお立場から話していただきたいと思っております。

【アドバイザー】

目標値を設定するときに、行政の担当者は思い切った数値を入れなければなりません。その数値を入れた以上、そのための施策を行っていかないといけないということです。数値を上げるためにどのような施策を行っていくかということにつきましては、各担当者でそれぞれ考えなければならず、すべてのものについて対応できるか、また一番足りない部分は何かを見極めて、実施可能なものをあげざるを得ないというのが行政側の難しいところでございます。

私が気になりますのは、P3の施策17の「都市景観」でございます。王寺町は、奈良県にあるのか大阪府にあるのか、大阪の沿線にある都市とそう変わらないまちの様相をしているように思っています。都市景観は、住民の皆さまが王寺町に帰ってきたという感覚を持てるようなまちにしたいのか、したくないのかというご意見も反映される話であり、王寺町でも具体的に組み込まれていない政策だろうと思っております。また、今まで住民の皆さまもどうこう言うこともなかったのかもしれませんが、しかし、王寺町というアイデンティティーを持つなかで、景観というものは大事であるという思いが出てきている状況にあります。施策で「都市景観」という表題をあげていただいているのはよいのですが、一体何をするのかということが見えてないので、成果指標もなかなかあげられないという状況になっているのではと思っております。

例えば、電線の地中化率や緑化率、街路樹の整備率、屋外広告物の許可率等、施策をやろうとするといろいろな成果目標が出てきます。今の段階でどこまで積み上げられるのか、不安な部分もございます。実績を見ますと、公園の緑地の整備について満足度が100%とありますが、100%を維持するための目標も目標になり得るのかと思っております。

【副会長】

前回の5月の会議でいろいろ議論させていただいたと思っておりますが、そのときに出た資料が「基本構想の素案」で、そのなかに「まちづくりの目標」というのが5つ並んでいてその説明も入っております。前回、体系図に関しまして議論をしたものを整理し直したのが今回の会議資料だと思いますが、これが一覧されていないため全体像がまったく見えてきません。せめて途中であっても、委員の皆さまには体系図をお見せしないとわからないと思っております。

前回、まちづくりの目標の文章について議論していろいろな意見をいただいたと思っております。そのようなベースがあるなかで、政策と施策についての中身の議論がなされておられませんので、何

を目標にすればよいのか見えてきません。

例えば、教育にはいろいろな側面があり、小学生の全国統一テストで上位にくるというのも一つの目標かもしれませんが、「命の大切さ」を知るというのも大きな目標になり得るのではないかという考えもあります。また、災害から生き延びる力をつけるということもあるかもしれません。そのようなことを議論しておけば、指標としてすぐに導けるのではないかと思います。また、市民の皆さまにも指標についてイメージしやすくなり、理解していただきやすいと思います。これは、行政のなかでも指標のイメージが非常に明快になりますので、日常業務をどのようにすればよいかが見えやすいのではないのでしょうか。

指標の選び方につきましては、「アウトカム」というキーワードが出ていたと思います。これは非常に大事なことであり、計画に載っている事業を行ったおかげで、まちがどれだけよくなったかということを表すものを考えなければいけないと思います。

例えば、自主防災組織の数が出ておりますが、組織はつくったのに機能していないということもあり得る話です。他市の総計を見ておきますと、「自主防災組織による年間訓練参加者数」という指標があがっておりました。これは活動能力を示したものでありますが、さらに先を行ってどれだけ災害に対応したかということまで指標にすると数も少なくなりますので、あまり先を行き過ぎてはいけません。施策を行った結果、王寺町はどうなるのかということイメージしておかないと、アウトカム指標も見えてこないのではないのでしょうか。設定根拠というより、もっと施策の中身を出していただかないといけません。

これらのことにつきましては整理していただき、次回の会議で明快な指標をお示ししていただければと思います。

【会長】

ありがとうございます。成果指標はあくまでもたたき台であり確定したものではありませんので、持ち帰って議論させていただくようにご許可願いたいと思います。

私は、丹波市の総合計画審議会の会長もしましたし、西脇市の総合計画審議会の会長でもあります。現在、愛知県高浜市の総合計画審議会の会長もしております。また、都道府県の審議会の副会長もしておりますが、審議会のなかであがっている成果指標は、結構工夫されているものを開発してきております。ただ、その市町村でなければ無理なものもございます。なぜかといいますと、その市町村独自にその施策を行っているからです。

例えば高浜市では、学校教育の成果指標に「学校に行き先生や仲間と会うのが楽しい」と思う児童・生徒の比率がございます。毎年学校でそのようなアンケートを取っており、高浜市では「楽しい」と思う比率が85%です。この数値を99%までにしたいというのが計画でございます。これは、可能なことです。事務局や委員の皆さまからも、このようなアイデアをご提起いただきたいと思っております。この計画は、どうしてもハードに捉われているような気がしてなりません。

その一方で、災害に関するお話がありましたが、ハード整備についてもないがしろにはいたしません。例えば都市河川の問題は、国の一級河川だからということで放置しておいてよいものでもありません。政策的に手を打つとともに、もし溢水してしまった場合に対応するハザードマップが完全整備できているかどうかことが重要となります。ハザードマップの整備率や、ハザードマップが整備されていることを理解している住民の比率が何%かということも成果指標になります。

そのようにして、具体的に積み上げていくなかで出てくるものであると思います。

また、自治会町内会加入率の低下をどのように食い止めていくかという政策をどこかに取り入れる必要もごございます。自治会町内会だけに頼っていてよいのかという議論もしなければいけません。自治会町内会はどうしても世帯単位で世帯主に負担がかかるということと、今の自治会町内会には専業主婦と地元の自営業の方々に負担がかかりすぎており、勤労階級の方は入らないから自由をしているということで本当によいのかということがあります。これは自治会町内会の問題ではなく、役所として必要な住民自治の一方に穴が空いているという危機の問題であります。それに対する施策をどのように考えるかということも、この委員会では問題意識を持った方がよいと思います。そのための施策を新しく起こさなければならないかもしれません。

事務局に行っていたきたいのは、施策の体系までは議論しましたが、これらの下にある現行施策をすべて埋め込まなければならないということです。また、新規に起こさなければならない施策を考えることも、点検作業としてあるのではないのでしょうか。

河川の問題でも、国の責任だけではないと思います。国の河川整備が1年間遅れたおかげで冠水したり橋が流されたりしたときに、命が助かるための防災訓練はできていたのか、ハザードマップを作成し避難所の設置ができていたのか等については市町村の責任になります。そのように、立体的に考えて計画をつくりましょうということを申し上げたいと思います。

【会長】

それでは次に、総合計画策定の今後のスケジュールについて事務局よりお願いします。

3 その他

【事務局】

総合計画は、平成26年12月の完成を目標に進めさせていただくというようにご報告申し上げましたが、まだ統計資料の洗い出しに時間を要している状況でございます。そのようなことから、平成27年3月の完成を目指していきたいと考えております。当初の予定よりも長期に渡りご負担をお掛けしますが、ご了承賜りますようよろしくお願いいたします。

【会長】

12月末をもって完成予定であったのが、3月末になるということでございます。拙速に走らず、しっかりした計画を策定したいとおっしゃっておられますのでご了解いただけますでしょうか。

それでは、本日の議事案件はすべて終了いたしました。それでは、事務局にお返しします。

【事務局】

基本構想の素案作成に向けて、本日いろいろなご意見をいただいた分とさらに統計数値を集めて進めていきたいと考えております。できましたら、11月末か12月はじめに再度審議会を開催させていただいて、そのときに基本構想の素案をお示しできるよう準備を進めていきたいと思っております。また、日程が決まり次第ご案内させていただきますのでよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。